

西原の年中行事

その①

沖繩では毎年、同じ時期や季節になると、ある一定の行事（祭）が行われます。その行事は、旧暦（太陰暦・月の満ち欠けで暦を作成）に基づいて行われます。その一つ一つをシチビ（節目）、もしくはウイミ（折目）といいます。沖繩の人々は、それらの行事を字・門中・家庭の中で大切にし、伝統的に受け継いできました。

が行われていました。戦前の西原町はサトウキビ作にとって代わる以前、肥沃な田んぼの広がる地域でした。そのため、稲作に関係する行事や人々の健康



2002年 我謝の獅子舞



2002年 呉屋の綱曳き



2002年 安室の六月ウマチー

を願う行事などが現在でも伝統的に行われています。例えば、今月の七月二十日（水）は旧暦の六月十五日にあたり、六月ウマチーという稲の収穫祭や綱曳きがあります。字では、神酒（ジンス・ウンサクともいわれる）を作り、御嶽やトウンといわれる聖地にそれを供えます。以前は、ノ口といわれる神女、現在では区長さんらが来期の豊作と字の繁栄、人々の

健康を祈ります。みなさんが住んでいる字ではどのような行事、日程が組まれているのでしょうか？一度、字の行事に足を運んでみてください。きっと、新しい発見があると思います。

話はかわりますが、今年の旧暦八月十五夜に棚原と小波津で「村遊び」という大きな祭が行われます。棚原ではミルク加那志の御誕生祭ともいわれ、十二年に一度、酉年の開催となります。また、小波津は七年に一度行われていたのですが、昭和五十年に途絶えて以来、三十年ぶりに開催します。

と、祭の雰囲気が高まっています。「村遊び」の当日、棚原と小波津に行って、人々の熱気に触れてみてはどうですか？



2005年 小波津 地謡の練習



2005年 棚原 ガクの練習